

N S T

N S Tは1970年 America の Chicago に集結した代謝・栄養学専門の医師・栄養士・薬剤師らが専門的な栄養管理チームの必要性を唱えて誕生し、その発展の背景には医療の合理化を図りつつも患者満足度を高められるよう、病院サービスの向上に努め、結果的に医療コストの削減を目指すという役割を担っています。

近年、医療現場での栄養管理の重要性が認知され、2010年の診療報酬改定では急性期病床において、2012年からは慢性期病床においても栄養障害を生じている患者または栄養障害を生じるリスクの高い患者に対して、医師、看護師、薬剤師及び管理栄養士などからなるチームを編成し、栄養状態改善の取り組みが行われた場合の評価の新設「栄養サポートチーム加算」が導入されました。当院でも、N S T専従管理栄養士1名を置き、「輪になるつながる栄養サポート」をモットーにN S T活動を続けています。

さらに2011年からは、N S T介入患者が退院後も適切な栄養管理がなされるように『N S Tサマリー』を作成し、退院時には施設や在宅で介護に関わる方々への情報提供を継続しています(2017年度は161例)。

当院のN S Tは2004年6月に設立された全科型N S Tで supervisor・chairman・director 各1名(副院長、センター長、内科部長)と assistant directors10数名(各科部長・副部長、看護師長、管理栄養士等)、その他 members10数名(薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・ケースワーカー・事務職等)で構成されています。

2004年に日本静脈経腸栄養学会から、2006年には日本栄養療法推進協議会から、それぞれN S T稼働施設に認定されています。2008年より院内スタッフへの栄養管理に関する啓蒙活動として、1年間に開催されるN S T勉強会や研修会などに規定回数以上参加できたものに限り、院内オリジナルN S Tバッジを進呈し(2017年度は16名取得)、またN S Tに関係する各学会・研究会への積極的な参加・発表を心がけています(2017年度は学会発表1例)。

将来的な病診連携下での院外型N S Tへの発展も目指し、院外型N S T活動の一環として病診連携施設の方々を招待し、当院N S Tが稼働してか

ら定期的に岐阜南N S T研究会(年2回)、またN S T情報交換会(年1回)を開催しています。

毎月1回NST委員会と院内勉強会を開催し、すべての新規入院患者を対象に、栄養スクリーニング施行(入院中の新規対象についてのコンサルテーションは随時受付)、対象患者へは毎週2回N S T回診を行い、栄養管理に関して提言しています(2017年度の新規N S T介入患者は275名で、男性129名/女性146名。診療科別では内科178名/外科20名/脳神経外科40名/整形外科16名等)。2017年6月よりNST回診対象の全患者についてカンファレンスを行った後、ベッドサイド回診を行っています(毎週火曜:南館、水曜:北館)。事前カンファレンスシートを用いることにより、各職種スタッフの負担軽減を図るとともに効率のよい回診を目指しています。

[文責:山本奈央子]